第745号 平成19年6月20日発行（毎月20日発行）
昭和49年8月31日　第三種郵便物認可

2007年（平成19年）
6月号（No. 745）
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価1部　150円
URL●http://www.jac.or.jp
e-mail●jac-room@jac.or.jp

目　次

平成19年度第1回通常総会……1
平成18年度事業報告……4
収支計算書・正味財産増減計算書……5
貸借対照表・財産目録……6
創立100周年記念事業収支……8
100周年事業の達成と今後の山岳会……8
新しいクラブライフをめざして……9
東西南北……11
　森林生態系崩壊の現場
　山はなぜ高いのか
活動報告……13
　三水会／101の会
図書紹介……14
図書受入報告……15
会務報告……16
ルーム日誌……17
会員異動……17
さんけん通信……18
新入会員……18
INFORMATION……19

▶日本山岳会事務（含図書室）取扱時間
月・火・木……10～20時
水・金……13～20時
第2、第4土曜日……閉室
第1、第3、第5土曜日……10～18時
夏季休室……8月11日～8月19日

平成19年度第1回通常総会
新会長に宮下秀樹氏を選任

平成19年度第1回通常総会が5月19日午後2時から東京・麹町の弘済会館で開かれた。会員164人が出席し、①平成18年度事業報告及び収支決算・財産目録の承認、②平成19・20年度役員及び評議員の選任、③平成19年度除籍予定者、④創立100周年記念事業特別会計中間報告―について審議された結果、いずれも原案どおり可決承認された。新しい会長には、宮下秀樹氏を選任した。

■会長あいさつ
「100周年」終え感無量

議案審議に先立ち、任期を終えた平山善吉会長は、あらまし次のように挨拶した。

100周年記念事業を無事終えることができた。『日本山岳会百年史』の刊行をはじめ、英文ジャーナル、『新日本山岳誌』などの刊行。これらの集大成としての式典は皇太子殿下のご臨席のもと、世界各国から代表者を招いて開催した。とどこおりなく終了し感無量である。

この4年間、いくつかの改革を実施した。支部を重視し、学生部登山を奨励、会員サービスを図り、公益法人への道を開いてきた。しかし、会員の減少が続いている。かつて毎年100～200人の会員増があり、2001年には6007人となった。これをピークに減少し続けている。会の収入も減少していく。これからは既存の事業をただ続けるのではなく、方向転換していかなければならない、と思う。

考えなければならない問題を提起したい。タブー視されてきたことだが、あえて申し上げたい。第一は会員数の問題だ。これまで会員を増やすために、ほとんど無制限に入会させてきた。それでいいのだろうか。会員にはおのずから一定以上の山の知識と経験が問われ、諸先輩から受け継いできた品格が必要ではないか。適正な規模を決めることが必要ではないだろうか。第二は委員会だ。すべてが必要だろうか。私は委員会の統廃合を提案してきた。総務、財務委員会とか山岳、会報、図書、資料・映像委員会などは必要だろうが、きびしい財政状況のなかで、必要でないものもあるように思う。同好会でいいのではないか。支部や同好会の活動を見習うべきだ。第三は、登山を「業」としている会員の取り扱いだ。会の門戸を閉ざすものではないが、会の中枢にある人が商業登山をするのは反対である。いずれも私案として批判をいただき、新しい会長のもとで、議論していただければ幸いだ。

■事業報告・収支決算
首都圏に3つの支部誕生

この日の総会には2518の委

4年の任期を終え、あいさつする平山善吉会長

任状が提出された。在籍者は5543人であり、出席者を合わせると、会員の3分の1を上回って総会は成立。

文部科学省の指導で事業計画・予算案を当該年度がスタートする前に決定することとし、昨年から通常総会を年2回開いている。ことしの事業計画・予算案は3月に総会を開き承認した。今回は昨年度の事業報告・収支決算を審議する。吉永英明総務担当理事が事業報告を、贄田統亜財務担当理事が収支決算・財産目録を説明した。

【事業報告】　公益社団法人への移行に備え、「公益的事業」と「一般事業・会員のための事業」に大別した。支部の公益的事業が多い。4月には宮崎支部が子ども登山教室、5月には北九州支部が初心者登山教室、8月には北海道支部が自然児学校、また青森支部が身障者登山を開催・実施した。

9月24～26日、日本・ネパール国交樹立50周年ネパール展をマナスル委員会と共催で実施した。自然保護・山岳環境保全事業では、高尾の森づくりのほか、青森支部が白神山地再生育林、東海支部が猿投の森づくり、宮崎支部が水原の森づくりを実施、関西支部が中央分水嶺踏査事業に入らなかった四国分水嶺を踏査した。

このほか『日本山岳会百年史』を刊行、第9回秩父宮記念山岳賞を山本紀夫氏に授与、海外登山基金による海外登山の助成をクビツァンポ源流学術登山隊など3隊に行なった。

会員のための事業としては、12月に年次晩餐会を、はじめて東京を離れ東海支部の主管で、名古屋で開催、またマナスル登頂50周年を記念し、ネパールで記念レセプションを開き、トレッキングを実施した。

首都圏での支部化を進めた結果、ことし5～6月に栃木、茨城、千葉で設立総会を開く段取りとなった。全国28支部となる。

【収支決算等】　収支決算は、収入合計が7271万円だった。うち会費・入会金は6525万円で収入全体の89・7パーセントを占めた。新入会員は150人を予定したが、141人にとどまった。

支出は7194万円となった。内訳は事業費が4108万円、管理費は2913万円。事業費が多くなるよう心がけている。事業費のうち、出版費は『山岳』製作費のページ減などによって予算を下回った。支部関係費は上高地で支部長会議を開催し増加。その他事業費は総会・晩餐会などの費用、ウェストン祭・自然保護全国集会などに対する補助金、グッズ用品の仕入れなど。仕入れを控えたことなどで予算を下回った。

当期収入から支出を差し引いた当期収支差額は77万円となった。これは当期収入で支出をまかなったことを示している。前期からの繰越金を加え、次期繰越収支差額は925万円となった。期末正味財産合計額は4億2775万円。

これらに対し竹中彰監事から収支計算書等が正確かつ妥当であり、さらに理事の業務執行が誠実に行なわれたことを認める監査報告があった。

■理事・監事、評議員の改選
執行部案どおり拍手で承認

第2号議案は「役員・評議員の改選」。平山議長が候補者を提示した。前々回の改選では、質疑・意見が相次いだ。今回は大きな反対表明もなく、多数の拍手でもって執行部案通り承認した。

平成19・20年度理事・監事

会　長	宮下秀樹	新任
副会長	神崎忠男	新任
副会長	鯵坂青青	新任
理　事	斎藤健一	再任
理　事	吉永英明	再任
理　事	藤井正善	再任
理　事	石橋正美	再任
理　事	古野　淳	再任
理　事	太田晃介	新任
理　事	宮崎紘一	新任
理　事	成川隆顕	新任
理　事	堀井昌子	新任
理　事	相馬　勉	新任
理　事	山川陽一	新任
理　事	岡部　紘	新任
監　事	深川安明	新任

監　事　竹中　彰　新任

評議員

▽再任＝日下田實、岩坪五郎、河野長、田部井淳子、今村千秋、藤本慶光

▽新任＝秦野一彦、阿部和行、酒井省二、中野和郎、高遠宏、新妻徹、浜口欣一、山本聖二、坂口三郎、近藤緑、寺西申生、小疇尚

■19年度除籍予定者 首都圏30人、支部61人

平成19年度の除籍対象者は91人。会費を17・18年度の2年間滞納している人である。19年度も納入しないと除籍となる。首都圏30人、支部61人。会員番号10000台の会員が多い。実際の除籍者は例年、40～50人となるが、1年間でもいいから会費を納めて留まってほしいという要請があった。

■100周年記念事業　特別会計 募金・寄付総額7184万円

100周年記念事業特別会計について中間報告があった。事業費総額1億517万円。最終的には60～70万円が残る見込みだ。

募金は、会員から3年間300円ずつ募金していただくことを主体に行なった。会員、企業などから計6676万円募金していただいた。募金寄付総額は7184万円となった。

支出は、記念式典2030万円、『百年史』1600万円、登山隊補助980万円など。

募金内訳	総数(件)	募金(万円)
会員	3,429	7,002
会員有志	345	999
企業	104	2,546
大学	27	342
その他	18	83

■質疑・応答

柴田篤志会員（4932）『山岳』復刻版の刊行に対するアテネ書房からの手数料28万9800円が同社の倒産で未回収になっているのではないか。

吉永理事　昨年8月、法的整理に入ったと通知を受けた。未回収となっている。回収は難しい。

山川陽一自然保護委員会委員（12946）　自然保護活動は支部が活発だ、という報告があったが、自然保護委員会は支部に委員を多く持っている。昨年、山陰で開催した自然保護全国集会も本部と支部が一体となって実施したものだ。認識を改めてほしい。

大島輝夫会員（4012）『百年史』編纂の労をねぎらいたい。収集された史料は、ぜひ保存してほしい。戦時中の記述には異論もあるが、会が派遣した登山隊を表の形にして掲載してほしかった。

松田雄一百年史刊行委員長（4111）　積み残したものは『山岳』で掲載したいと考えている。

新妻徹会員（5868）　北海道で台風による被害地の植林をやっている。100周年記念事業のなかにある「森づくり補助」は、どのような内容か。参考にしたい。

会員164人が出席、満員になった総会会場

山川会員　高尾の森づくりでの記念事業で、わくわくビレッジで行なった演劇に対する費用だ。実際は企業から集めたお金で行なった。関連記念行事といったものだ。

■新会長挨拶 縮小均衡をも視野に入れる

議事終了のあと新役員・評議員が紹介された。会場の前にずらりと並び、それぞれに挨拶。大きな拍手を受けた。宮下新会長は「会員の純減、ひいては収入減少が目前に迫っている。公益法人化、首都圏の支部化といった問題もある。縮小均衡も視野に入れて行動していかなければならないと考えている。60歳代が元気だという。日本山岳会も60歳代の会員が全体の38パーセントを占めている。ぜひ知恵とパワーをお借りしたい。若い人の魅力あることもやっていきたい。とにかく『楽しい会にしよう』を合言葉にして頑張っていきたい」などと語った。

総会終了後、懇親会を開いた。山田二郎名誉会員が音頭をとって乾杯し和やかな歓談を続けた。

（文・髙橋重之、写真・神長幹雄）

＊青年部会報「きりぎりす」の発行（年２回）
＊「中央分水嶺踏査」報告書の発行
＊「北海道中央分水嶺踏査記録」の発行（北海道支部）
＊自然保護委員会会報「木の目草の芽」刊行

(4)その他目的を達成するための事業

＊第９回秩父宮記念山岳賞の授与（受賞者　山本紀夫氏）
＊海外登山基金による海外登山の助成(クビツァンポ源流学術登山隊 外３隊)
＊山岳図書の整備・拡充
＊山岳遭難の予防と対策に関する関係団体との協議
＊国内関係団体（日本山岳協会・東京都山岳連盟・日本ネパール協会・日本ヒマラヤ協会・ＨＡＴ−Ｊ・その他）との連携
＊海外登山団体との情報交換及び機関誌の交換等
＊国内博物館・美術館との提携
＊「上高地山岳研究所」の運用
＊上高地・ミニ水力発電所の運用
＊登山記録等の保存・整備

2. 一般事業及び会員のための事業

(1)登山、集会、施設の運用等

４月１～４日	第２回世界遺産熊野古道を歩く（事業）	熊野
４月14～15日	中央分水嶺踏査（科学）	馬坂峠
４月15～16日	学生部所属大学山岳部新入部員歓迎会（学生）	奥多摩
４月29日	上高地山研開所（山研）	上高地
５月11～13日	中央分水嶺踏査（科学）	安が森峠
５月24～28日	若葉山行（韓国、事業）	智異山
６月３～４日	東北北海道地区集会	秋田
６月３～４日	新入会員のための徳本峠越えとウエストン祭(山研)	上高地
６月７～８日	探索山行「富士山の地形と植生の特徴を探る」(科学)	富士山
６月17～18日	沢登り集会（学生）	奥多摩
７月15～16日	探索山行「富士山の地形と植生の特徴を探る」(科学)	富士山
８月26～27日	上高地星の会（山研）	上高地
９月28～10月２日	北海道紅葉山行（事業）	十勝三山
10月７～９日	全国支部懇談会（福井支部）	永平寺
10月14～15日	クライミング集会（学生）	江東
10月28日	新入会員オリエンテーション（総務）	本会
11月５日	上高地山研閉所（山研）	上高地
11月12日	学生部所属大学山岳部マラソン大会（学生）	皇居
12月２日	平成18年度年次晩餐会(東海支部・総務)	ナゴヤキャッスル
12月３日	晩餐会記念山行（東海支部）	御在所山
12月11～18日	マナスル登頂50周年記念レセプション・トレッキング	ネパール
12月30～１月３日	冬季開所（山研）	上高地
１月６～８日	スキー懇親会（事業）	戸隠高原
２月３～４日	九州５支部懇談会	小倉
２月７～８日	アイスクライミング集会（学生）	八ヶ岳
２月19日	第37回山岳図書を語る夕べ（図書）	本会
３月３日	第24回図書交換会（図書）	本会
３月３日	第35回山岳史懇談会（図書）	本会

(2)海外登山等

８月～10月	学生部 パンバリヒマール遠征
９月～１月	東海支部　ローツェ南壁（冬期）遠征
９月	福井支部　海外登山（チベット）
通年	長期登山計画の策定

(3)会議等

＊通常総会の開催（５月20日・３月10日）
＊理事会の開催（11回）
＊常務理事会の開催（11回）
＊支部長会議（５月・７月・12月）
＊支部長・支部事務局担当者会議の開催（２月）
＊評議員会の開催（４回）

(社)日本山岳会　平成18年度事業報告

平成18年年４月１日～平成19年年３月31日

１．公益的事業

(1)登山、講演会、シンポジウムの開催等

４月20日	講演会「マッキンリーの気象観測」(科学)	本会
４月28～29日	子ども登山教室（宮崎支部）	久住山
５月27日	初心者登山教室（６回、北九州支部）	
５月～３月	宮崎家裁少年補導受託登山（年３回、宮崎支部）	
５月27～28日	第26回日本登山医学会シンポジウム（医療）	
６月２～４日	上高地ウエストン祭（信濃支部）	上高地
６月24日	第２回山の博覧会「山を知ろう 山へ行こう」(山梨支部)	山梨学院大
７月７～８日	全国山岳遭難対策協議会（指導）	静岡市
８月４～７日	自然児学校（北海道支部）	
８月20日	青少年登山教室（東九州支部）	九重山群
８月27日	身障者登山（青森支部）	八甲田山
７月27～８月13日	上高地インタープリタ活動（自然保護共催）	上高地
９月３日	実技講演会「山での突然死を防ごう」(医療・指導)	日本青年館
９月５日	京都講演会「中高年登山者の注意点」(医療)	京大会館
９月20日	ドクタージムダフ講演会「山岳・辺境における救急医療」(医療・海外・指導)	
９月24～26日	日本・ネパール国交樹立50周年ネパール展(マナスル委員会共催)	秋葉原
10月３日	山岳映画会「ガストン・レビュファ作品」(資料映像)	本会
10月18日	スペシャルオリンピックス(知的障害者との登山)(東海支部)	入道岳
10月21日	山岳博物館等連絡会議（資料映像）	本会
10月28日	親と子のふれあい登山教室（東海支部）	尾高岳
11月２～３日	宮崎ウエストン祭（宮崎支部共催）	
11月10日	山岳講演会（岐阜支部）	長良川スポーツプラザ
11月19日	救急蘇生法及び雪崩講習会（指導）	新橋
11月20～22日	県警察山岳救助指導（宮崎支部）	
１月13～14日	雪崩講習会（事業・指導）	関温泉
２月１日	講演会「講師江本悠二氏」(青年)	本会
２月６日	実技講演会「山の怪我の処置と搬送法」(医療)	東京体育館
２月３～４日	雪崩講習会（指導）	白馬
２月10～12日	雪崩講習会（指導）	栂池・白馬岳
２月17日	フォーラム「中央分水嶺踏査」(科学)	弘済会館
２月20日	講演会「登山のためのトレーニング」(医療)	東京体育館
通年	登山講座（初級・中級）(広島支部)	

(2)自然保護・山岳環境保全

６月～９月	高山植物盗掘防止パトロール受託事業（北海道支部）
６月３～４日	自然観察会（於：神津島　自然保護）
10月20～22日	自然保護全国集会（於：大山　自然保護・山陰支部）
10月27～29日	フォーラムIN八ヶ岳・勝沼（自然保護後援）
４月～９月	全国中央分水嶺踏査（最終年）
通年	「高尾の森づくり」（自然保護）
〃	「白神山地再生育林」（青森支部）
〃	杉峠登山道整備（石川支部）
〃	「夜叉が池」環境パトロール（岐阜支部）
〃	「猿投の森づくり」（東海支部）
〃	「小津権現山」遊歩道整備受託事業（岐阜支部）
〃	「大山」横手道上ブナ林育成支援（山陰支部）
〃	森林保全巡視受託事業（北九州支部・熊本支部）
〃	「水原の森づくり」（宮崎支部）
〃	環境省「吉野熊野国立公園西大台地区利用適正化計画検討協議会」への参加（関西支部・自然保護）
〃	四国分水嶺踏査（関西支部）

(3)出版等

＊「100年史」の発行
＊山岳第101年（2006年）の発行
＊会報731号～742号の発行
＊インターネット・ホームページの更新
＊海外向英文誌「Japanese Alpine News Vol.7」の発行

	銀行振込手数料	0	64,915	−64,915
	福利厚生費	1,640,000	2,020,085	−380,085
	事務所管理費	1,100,000	1,314,744	−214,744
	その他管理費	2,700,000	2,224,165	475,835
	負担金	60,000	40,000	20,000
	賃借料	3,240,000	3,240,000	0
	雑費	900,000	422,412	477,588
	管理費計	28,410,000	29,134,707	−724,707
3	固定資産取得支出			
	什器備品購入支出	0	0	0
	固定資産取得支出計	0	0	0
4	特定預金支出			
	長期計画積立金支出	0	0	0
	秩父宮記念賞基金支出	1,000,000	1,000,000	0
	海外登山基金支出	0	0	0
	終身会費積立金支出	0	726,000	−726,000
	退職給与引当預金支出	0	0	0
	特定預金支出計	1,000,000	1,726,000	−726,000
5	予備費			
	予備費	1,000,000	0	1,000,000
当期支出合計(C)		74,190,000	71,942,363	2,247,637
当期収支差額(A)−(C)		−875,000	771,926	−1,646,926
次期繰越収支差額(B)−(C)		7,606,357	9,253,283	−1,646,926

正味財産増減計算書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

科目			
Ⅰ	増加の部		
1	資産増加額		
	当期収支差額	771,926	
	棚卸資産	376,343	
	終身会費積立金	726,000	1,874,269
2	負債減少額	0	0	1,874,269
	増加額合計		
Ⅱ	減少の部		
1	資産減少額	0	0	
2	負債増加額	0	0	
	減少額合計			0
	当期正味財産増加額			1,874,269
	前期繰越正味財産額			425,880,434
	期末正味財産合計額			427,754,703

貸借対照表

平成19年3月31日現在

科目			
Ⅰ	資産の部		
1	流動資産		
	現金	295,185	
	振替貯金	1,174,572	
	普通預金	4,143,526	
	定期預金	0	
	未収会費	5,208,000	
	棚卸資産	1,867,513	
	流動資産合計		12,688,796
2	固定資産		
	基本財産		
	貸付信託	8,000,000	
	基本財産合計	8,000,000	
	その他の固定資産		
	土地	74,953,705	
	建物	164,446,465	
	敷金	288,450	

収支計算書

平成18年4月1日から平成19年3月31日まで

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅰ 収入の部				
1 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	5,000	2,753	2,247	
2 会費・入会金収入				
入会金収入	3,000,000	2,760,000	240,000	
復活入会金収入	0	60,000	−60,000	
通常会費収入	62,000,000	61,706,000	294,000	
終身会費収入	700,000	726,000	−26,000	
会費・入会金収入計	65,700,000	65,252,000	448,000	
3 事業収入				
広告料収入	1,600,000	1,762,500	−162,500	
刊行物売上収入	200,000	168,030	31,970	
山研使用料収入	2,500,000	2,326,688	173,312	
その他事業収入	2,700,000	1,152,770	1,547,230	
事業収入計	7,000,000	5,409,988	1,590,012	
4 補助金等収入				
補助金収入	0	1,000,000	−1,000,000	(注)1
5 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
寄付金収入計	0	0	0	
6 雑収入				
受取利息	10,000	91,651	−81,651	
雑収入	600,000	957,897	−357,897	
雑収入計	610,000	1,049,548	−439,548	
7 特定預金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計 (A)	73,315,000	72,714,289	600,711	
前期繰越収支差額	8,481,357	8,481,357	0	
収入合計(B)	81,796,357	81,195,646	600,711	

(注) 1 電源開発(株)「マッキンリー基金」助成金　¥1,000,000

科目	予算額	決算額	差異	備考
Ⅱ 支出の部				
1 事業費				
出版費	10,800,000	8,556,397	2,243,603	
図書管理費	170,000	261,650	−91,650	
調査研究費	1,790,000	1,781,806	8,194	
指導費	700,000	452,057	247,943	
支部関係費	10,500,000	11,819,939	−1,319,939	
海外諸関係費	200,000	87,838	112,162	
海外登山補助費	1,000,000	850,000	150,000	
山岳研究所事業費	1,360,000	1,310,214	49,786	
山岳研究所運営費	2,560,000	2,520,933	39,067	
ミニ水力発電	200,000	0	200,000	
その他事業費	9,600,000	8,188,993	1,411,007	
印刷・製本費	400,000	560,866	−160,866	
刊行物発送費	4,500,000	4,690,963	−190,963	
事業費計	43,780,000	41,081,656	2,698,344	
2 管理費				
給料手当	13,000,000	13,887,501	−887,501	
文具消耗品費	200,000	40,956	159,044	
印刷製本費	1,250,000	1,359,912	−109,912	
旅費交通費	750,000	957,640	−207,640	
通信運搬費	800,000	723,013	76,987	
火災保険料	200,000	177,190	22,810	
修繕費	100,000	0	100,000	
租税公課	650,000	913,411	−263,411	
光熱水料費	650,000	680,784	−30,784	
電話料	320,000	330,239	−10,239	
会議費	50,000	0	50,000	
什器備品費	100,000	0	100,000	
振替手数料	700,000	737,740	−37,740	

財　産　目　録

平成19年3月31日現在

科　　目	金　　額		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金預金			
現　金　現金手許有高	295,185		
振替貯金　千代田四番町郵便局	1,174,572		
普通預金　りそな銀行市ヶ谷支店	2,788,687		
〃　三菱東京UFJ銀行市ヶ谷支店	926,409		
〃　中央三井信託銀行本店	300,089		
〃　みずほ銀行市ヶ谷支店	23,556		
〃　三井住友銀行飯田橋支店	73,022		
〃　三菱東京UFJ銀行新宿支店	23,521		
通常貯金　千代田四番町郵便局	8,242		
未収会費434名	5,208,000		
棚卸資産（注）1	1,867,513		
流動資産合計		12,688,796	
2　固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託　中央三井信託銀行	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2)その他の固定資産（注）2			
土　地	74,953,705		
建　物	164,446,465		
敷　金	288,450		
什器備品	8,824,982		
長期計画準備金			
（定期預金千代田四番町郵便局）	5,043,000		
（定期預金三菱東京UFJ市ヶ谷）	18,003,305		
（普通預金三菱東京UFJ市ヶ谷）	6,200,000		
（普通預金みずほ市ヶ谷）	800,000		
秩父宮記念基金			
（定期預金三菱東京ＵＦＪ新宿）	15,200,000		
終身会費積立金			
（普通預金みずほ市ヶ谷）	21,274,000		
海外登山基金			
（定期預金りそな市ヶ谷）	33,600,000		
（定期預金三井住友銀飯田橋）	30,000,000		
（定期預金みずほ市ヶ谷）	30,000,000		
退職引当預金			
（定期預金みずほ市ヶ谷）	4,691,620		
その他固定資産合計	413,325,527		
固定資産合計		421,325,527	
資産合計			434,014,323
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金 平成18年度秋父宮記念基金積み増し	1,000,000		
前受会費 平成19年度会費　12名分	144,000		
預り金 職員に対する源泉所得税その他	424,000		
流動負債合計		1,568,000	
2　固定負債			
退職給与引当金	4,691,620		
固定負債合計		4,691,620	
負債合計			6,259,620
正味財産合計			427,754,703

（注）1　棚卸資産内訳

種　　類	摘　　要	金　　額
刊　行　物	「山岳」総索引，「山岳」覆刻版　等	725,620
服飾品，その他	クラブタイ，ワッペン　等	1,141,893
合　　計		1,867,513

什器備品	8,824,982		
長期計画準備金	30,046,305		
秩父宮記念基金	15,200,000		
終身会費積立金	21,274,000		
海外登山基金	93,600,000		
退職引当預金	4,691,620		
その他の固定資産合計	413,325,527		
固定資産合計		421,325,527	
資産合計			434,014,323
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
未払金	1,000,000		
前受会費	144,000		
預り金	424,000		
流動負債合計		1,568,000	
2　固定負債			
退職給与引当金	4,691,620		
負債合計		4,691,620	
固定負債合計			6,259,620
Ⅲ　正味財産の部			
正味財産			427,754,703
（うち基本金）			(8,000,000)
（うち当期正味財産減少額）			(1,874,269)
負債及び正味財産合計			434,014,323

計算書類に対する注記

1．重要な会計方針

(1)　有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。

(2)　固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。

(3)　引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の131%に相当する額を計上している。

(4)　資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費、預り金、仮受金及び未払金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、下記３に記載のとおりである。

2．基本財産の増減額及び残高は、次のとおりである。

科　　目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託（中央三井信託銀行）	8,000,000	0	0	8,000,000
合計（基本金）	8,000,000	0	0	8,000,000

3．次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科　　目	前期末残高	当期末残高	備　考
現金預金	3,449,639	5,613,283	
未収会費	5,424,000	5,208,000	
合　　計	8,873,639	10,821,283	
未払金	0	1,000,000	
前受会費	84,000	144,000	
仮受金	20,000	0	
預り金	288,282	424,000	
合　　計	392,282	1,568,000	
次期繰越収支差額	8,481,357	9,253,283	

4．固定資産の取得価格、減価償却累計額および当期末残高は、次のとおりである。

科　　目	取得価格	減価償却累計額	当期末残高
建　　物	164,446,465	0	164,446,465
什器備品	8,824,982	0	8,824,982
合　　計	173,271,447	0	173,271,447

冬の山（清太山）	墨絵	近藤　茂吉	松本アルプス山岳館
梓川秋色	油−12	後藤　三男	本　会
早朝の上高地山岳研究所	版画−8	松田　敏男	上高地山岳研究所
旧上高地山岳研究所	水彩−10	松田　敏男	上高地山岳研究所
焼岳秋趣	版画−8	鈴木　正俊	伯耆国山岳美術館
ナムチャバルワ峰暮色	油−10	神原　忠夫	伯耆国山岳美術館
白馬雪田	日本画	丸山　暁霞	本　会
上高地秋景	油−F20	後藤　三男	上高地山岳研究所
マチャプチャレ	油−20	武井　清	本　会
朝霧	水彩−8	越智　英夫	本　会
白樺の林	油−6	茨木　猪之吉	本　会
麓春	油−P50	倉員　辰雄	本　会
ヒマラヤダージリンにて	油−F4	上野　春香	伯耆国山岳美術館
タムセルク	油−30	武井　清	本　会
安曇野の春	油−30	後藤　三男	松本アルプス山岳館
ヒマラヤの古都	油−30	藤江　幾太郎	本　会
アルバータ	油−6	レオン・アマン	本　会
ケルン	油−6	金光　義朗	上高地山岳研究所
山	油−6	辰沼　広吉	本　会
アルバータとピッケル	水彩	カナダ山岳会	本　会
題名不詳　24枚	油−10	茨木　猪之吉	本　会
題名不詳　8枚	油−6	茨木　猪之吉	本　会
題名不詳　12枚	水彩	茨木　猪之吉	本　会
スケッチブック	32冊	茨木　猪之吉	本　会
ロンブクよりエベレスト	版画	H．ソマベル	大町山岳博物館
白馬残照	版画	鈴木　正俊	本　会
穂高連峰	版画	小暮　真望	本　会
安曇野と常念岳	版画	小暮　真望	本　会
尾瀬と燧ヶ岳	版画	小暮　真望	本　会
谷川岳	版画	小暮　真望	本　会
シダンゴ山　晩秋	版画	鈴木　正俊	本　会
檜洞丸山荘	版画	鈴木　正俊	本　会
世界の名山36峰ペン画集	ペン画	牧　潤一	本　会

（他の絵画，写真　省略）

2．図　書

和　書	平成18年度受入冊数	107冊	蔵書計	11,394冊
洋　書	平成18年度受入冊数	25冊	蔵書計	3,797冊

3．フィルム・ビデオ

フィルム	15点	「マナスルに立つ」　他
ビデオ	280点	「映像史　ヒマラヤへの道」　他

社団法人 日本山岳会 平成18年度の収支計算書、正味財産増減計算書貸借対照表、および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成19年４月7日

社団法人　日　本　山　岳　会

監　事　　竹　中　　彰
監　事　　内　田　　博

（注）2　その他固定資産内訳

1．建物および土地

A．事務所および土地	
場所　東京都千代田区四番町5番4号	
構造　鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建	
（事務所）区分所有建物1階部分103.32㎡（専有部分）	
宅地持分1,124.56㎡×339/10,000	
=38.122584㎡	
（図書室）区分所有建物1階部分55.22㎡（専有部分）	
宅地持分1,124.56㎡×176/10,000	
=19.792256㎡	
（104号室）区分所有建物1階部分80.36㎡（専有部分）	
宅地持分1,124.56㎡×261/10,000	
=29.351016㎡	
計238.9㎡宅地持分87.265856㎡	121,400,170
B．上高地山岳研究所	
場所　長野県松本市安曇4469番地1	
構造　木造2階建地下1階（一部コンクリート造）	
1棟　274.09㎡	118,000,000
合　　計	239,400,170

2．什器備品

品　　名	取得年月日	取得価格	所　在
内移動書架一式 コンパックル	S53.02.10	1,500,000	図書室
閲覧用テーブル（木製2台）	52.09.28	250,000	図書室
ライティングビューロー（木製）	54.06.23	280,300	事務所
フィルム収納キャビネット（スチール製）	56.08.08	254,000	事務所
書棚（木製2段）	56.12.22	500,000	図書室
16mm 映写機 16-CL（MO）	61.05.13	156,000	事務所
木製書架ガラス戸付（2台）	62.09.24	700,000	図書室
シャープ液晶ビジョン一式	H02.07.19	587,932	事務所
ナショナル冷凍冷蔵庫 NR-041VP2-H	05.03.20	250,000	山　研
ナショナル29インチテレビ TH-29VS35	05.03.20	280,000	山　研
ナショナルBS付ビデオ　HV-BS50S	05.03.20	250,000	山　研
ミニ水力発電装置	11.11.30	3,816,750	山　研
合　　計		8,824,982	

財産目録記載外のその他物品リスト（主として受贈益）

1．絵　画

題　　名	種類・号数	作　者　名	掲載・保管場所
シュラギントワイト・アトラス	リトグラフ	シュラギントワイト兄弟	本　会
白馬岳	油−A50	中村　清太郎	大町山岳博物館
富士山麓	油−A25	茨木　猪之吉	河口湖町立美術館
田代池の白樺	油変形−6	中村　清太郎	本　会
群猿	墨絵	石井　鶴三	本　会
伊豆半島	油−10	茨木　猪之吉	松本アルプス山岳館
針の木峠より	油−10	茨木　猪之吉	本　会
徳本峠から穂高連峰	墨絵	石田　吟松	松本アルプス山岳館
初冬の両神山	油−10	茨木　猪之吉	本　会
鳥（カット原画）	墨絵	石井　鶴三	本　会
メールドグラス	エッチング		本　会
モンブラン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ遠望	エッチング	シュラギントワイト	本　会
ユングフラウ	油	山里　寿男	伯耆国山岳美術館
涸沢より北穂高	水彩−6	山里　寿男	松本アルプス山岳館
初夏の槍ヶ岳	油−10	中村　清太郎	本　会
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎　千代二	本　会
北穂高岳滝谷	油−25	足立　源一郎	本　会
或朝の槍ヶ岳	油−25	足立　源一郎	伯耆国山岳美術館
北穂高主峰	油−25	足立　源一郎	本　会
朝の槍ヶ岳	油−P8	足立　源一郎	本　会
タンボチェの僧院	水彩−4	清野　恒	松本アルプス山岳館
シェルパニの親子	水彩−4	清野　恒	松本アルプス山岳館

100周年事業の達成と今後の山岳会

会長　平山善吉

会長在任中、大過なく過ごすことができましたことは、皆様のご支援、ご協力のおかげとここに厚くお礼を申し上げます。

この4年間で最も印象に残るのは100周年事業です。私が会長に就任したときは、募金や事業をどうするのかという時でした。その後、何とか事業計画がまとまり、中央分水嶺踏破、学生部や各支部においていくつかの登山を行ないました。文化事業としては、『百年史』、『100周年記念英文ジャーナル』、『新日本山岳誌』、『写真で見る日本山岳会の100年』等の刊行や、図書展、各種講演会を開催するなど、立派な成果を収めていただきました。式典・祝賀会は、皇太子殿下ご臨席のもと、世界各国の代表者をお招きして、成功裏に終了することができました。

このように、100周年事業は全員参加をモットーに、皆様の格別のご理解とご協力のもと、滞りなく終了することができ、今、正に感無量です。これらの事業によって本会の絆は更に太く、強固なものになったと思い、次の100年にむけて確固たる礎ができたものと思っております。これらの詳細につきましては、すでに会報等を通じて報告しております。

この100周年事業にご協力いただきました募金の総額は7184万4000円に達し、総事業費は1億517万2000円となりました。当初の計画にはなかったのですが、104号室を100周年記念として購入、改装し、次の時代に残すことができました。そして、わずかではございますが剰余金を生み、これを本部会計に組み入れる予定です。

私は、この4年間、実行できるものは実行しようと言って、いくつかの改革をしたつもりです。この中で、本会会員の半数以上が所属する支部を重視し、学生部登山を奨励し、会員サービスをはかり、公益法人化への道筋をたてることができました。しかし、まだまだ改革しなければならない残された

創立100周年記念事業　収支

1．収支決算書　　平成19年3月末現在

支出		収入	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
登山隊助成金	8,800,000	百周年募金	66,761,229
ブロック別式典補助	2,000,000	寄付金	883,000
支部記念事業補助	2,711,000	企画・協賛収入	4,200,000
記念フォーラム	1,842,161	仕入代金戻し金	
記念式典補助	680,000	（GPS／TOPO）	3,272,360
森づくり補助	3,277,386	（カシオ時計）	14,616,000
GPS及びTOPO仕入代金	4,342,884	晩餐会会費収入	13,800,000
記念品代金（カシオ時計）	12,496,680	刊行物売上収入	821,360
式典費用	17,103,184	広告料収入	808,500
施設費用　（注）1	13,916,500	受取利息	9,784
旅費交通費	3,250,001		
資料購入代	688,147		
事務用品費	623,805		
通信運搬費	1,392,972		
会議費	136,310		
印刷費	10,185,574		
郵便振替手数料	567,120		
募金免税手数料	1,485,550		
雑費	3,895,429		
次月へ繰越	15,777,530		
合計	105,172,233	合計	105,172,233

2．貸借対照表　　3月末現在

資産		負債及び正味財産	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
普通預金（三菱東京UFJ）	14,277,575	預り金	0
（三井住友）	0	仮受金	0
（みずほ）	0		
郵便振替口座	1,425,739		
現金	74,216		
仮払金	0	次月へ繰越	15,777,530
合計	15,777,530	合計	15,777,530

（注）1　施設費用のうち13,780,000円は、一般会計に繰入れた。

問題は山積みです。これらの問題につきましては、「引き継ぎ書」を作成し、これを次期執行部に引き継ぎました。

また、本会を取りまく環境には厳しいものがございます。その1つは、「少子高齢化」と「若者の山離れ」です。いわゆる精鋭的登山は衰退し、会員は高齢化し、併せて会員の減少は顕著であるということです。本会の会員数は、2001年には6007名を数えたものがその後減少に転じ、06年には5543名となりました。このような減少傾向はこれからも更に増幅して続くものと思われます。このため、今までのように、既存の事業をただ続けるのではなく、大きく方向転換をしなければならないと思うのです。

また、日頃から気になる考えの一端を私案として申し上げ、皆様のご批判をあおぎたいと思います。第1は、クラブライフと会員数の問題です。本会は、会員数の減少のみに目を奪われ、ほとんど無制限に新会員を入会させております。これで良いのでしょうか。今、会の規模は拡大されましたが、会員のサービスが低下し、入会間もない会員の退会が続いております。クラブは多士済々で良いのですが、そこにはおのずから一定以上の山の知識と経験が問われ、諸先輩から受け継がれた品格が必要ではないかと考えます。私は、経常経費が支払われる規模の会員数を算出し、この範囲の会にしたらどうかと提案するものです。会員の減少を機に、今こそ新たな発想を展開すべきと思います。

2つ目は委員会の問題です。現在ある委員会の内容を見てみますと、厳しい財政状況の中で必要でないものもあると思います。いくつかの委員会は、同好会（予算を必要としない会）に変更してはどうかと考えます。私は、就任以来委員会の統廃合について提案して参りました。本会発展のために、会にとってどの委員会が必要なのか、一度これらを洗いなおしたらどうかと思うのです。

3つ目は、登山を「業」とする会員の取り扱いです。山登りが多様化し大衆化した今、本会にも登山を「業」とする会員もいます。これらの人達に門戸を閉ざすものではありませんが、会の中枢にある人が商業登山をすることには反対です。これは役員による一種の利益誘導といわれても仕方ありません。私達は、気のついたときに、まず身の潔癖を示すべきではないでしょうか。

本会は、これからもパイオニアワークを目指し、登山の文化を築き、継承していかなくてはなりません。世界にはまだ多くの未踏の頂、未知の地域があります。若者に愛される楽しい登山の会、会員のすべてがクラブライフを楽しみ、先人の残した良き伝統と気風を伝えていくような会であってほしいと願うものです。このためには、考え方や物の見方の違いをこえ、多様性を維持しつつ、「包容の心」で団結し、互いに連帯し、素晴らしい日本山岳会の建設に努力しようではありませんか。

本会の更なる発展を願い、私の退任の挨拶といたします。

新しいクラブライフをめざして

新会長　宮下秀樹

この度、図らずも皆様のご支援により会長に推挙されました。身に余る光栄と謹んでお受けするとともに、100年を越す歴史と伝統を考える時、その責任の重大さに身の引き締まる思いをしております。

会は現在、100年の節目を無事乗り越えた安堵感がある一方、次の100年に向けた目標を模索中といった一次平穏な時を迎えているように見えます。しかし、周囲を取巻く環境は待ったなしで少子高齢化の波が会に打ち寄せ、会員数の純減、即収入減という厳しさに直面しております。来秋に向けての公益社団法人化の準備や、若者にも魅力ある会づくりの実現には素早く力を注がねばなりません。

冒頭に図らずもと申し上げたのには理由があります。①私自身が慶應義塾山岳部OB会の幹事長（会長）を13年も続けたこと、②部創立90周年の記念登山を含む諸行事を無事やり遂げたこと、③これ

からの山岳部の山登りについて明確なビジョンを描き切れなくなったこと等の理由により、後任に人を得て昨年4月に交替したばかりで、十分な心構えもありませんでした。

創立が10年先輩の日本山岳会にとっても、スケールこそ大きく違いますが、類似の悩みがあり、私の年齢や病後のこともさることながら、③番目の日本山岳会ではこれからの山登りをいかに考えていかねばならないか、若い人に魅力ある山岳会にするためにはどうすればよいか、こうした大命題を解決するには私は余りに非力、その器にあらずと感じたからです。

しかしながら周囲の強い説得に根負けし、それではもう一度、悩みを持った経験者の一人として自分の力ある限り、最大の努力をしてみようと心に決めた次第です。当然のことながらこんな大命題を私一人で解決し、実行していくことなどできる筈もなく、会員各位の絶大なご支援、ご協力あってこそ前途に光明を見出していけるものと思っております。

平山前執行部が「長期改善計画」、「長期目標検討委員会報告」等その方向を示され、このところの会報には日本山岳会への提言、提案が、冒頭記事として続々載っています。危機感の現われであろうと思っています。私たちはその方針を継続し、新しい人たちの考えを付け加え、新たな決意を持って事に当たるつもりです。

私の育った頃の大学山岳部員、そして先輩方の山への激しい情熱を、今一度思い返し頑張りたいと思っています。まだ新しい執行部の人たちと十分な話し合いができておりませんが、できるだけ早い機会に具体的な目標を設定して、一歩一歩登っていきたいと思っています。

幸い100周年記念事業の中で特筆された「中央分水嶺踏査」では、多くの会員の方々の参加をいただき、その間に養われた支部員間の交流、一体感はこれからの貴重な財産になるものと確信しています。地域に密着した、地縁をより重視した首都圏支部の誕生、促進などは豊かなクラブライフの実現には大きな力となります。

また、ますます盛んになっている自然保護活動は多くの会員の賛同を呼び、会の活性化に寄与しているとともに、社会への公益性を大いにアピールしています。

総会で抱負を述べる宮下秀樹新会長

先鋭的登山を標榜し、実践した東海支部の冬期ローツェ南壁完登は、世界の登山界に誇れる立派な成果を挙げられ敬服にたえませんが、この後に続くものに何があるのだろうかと一抹の不安も感じています。

学生登山は、自主性を尊重しつつ「未知の地域の未踏峰へ」と目を向けるなど、山登りの原点を考えるのに絶大な効果があり、これからも継続実施して大いに期待しているところです。

やはり何と言っても最大の悩みは、学校を卒業し社会に入った若者たちの山登りへの情熱をいかに絶やさず継続させていくかであります。足が地に着いた社会生活を送ることが第一義であると私は思っていますが、その中で何か新しい山登りは生まれてこないものだろうか？　スポーツ登山と言われる競技登山的なものを、山岳会でも一度真正面から取り上げて考えてみることも必要かもしれないと思っています。

フリークライミングの中から新しい山登りのスタイルが生まれる可能性があると断じている人もいます。

今の社会環境を変えていくほどの力を持った会にはなれないにしても、少しでもそのお手伝いができないものかと考えています。

熟年登山者に対する「安全登山」の啓蒙や楽しい「クラブライフ」を充実させるための環境づくりに努力することには、多くの熟年の方々の知恵とパワーをお借りしたいと思っています。

今後、更なるご支援、ご協力を重ねてお願いする次第です。

N
西　東
北　南
S

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。（紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度でお願いします）

森林生態系崩壊の現場

奥村清明

天城山は万二郎岳（1320メートル）と万三郎岳（1406メートル）から成る。万三郎岳には1等三角点がある。この天城山一帯も、現在では保養地や別荘地、ゴルフ場として徹底的に開発されて、山麓には舗装路がクモの糸のように乱れ走っている。

私は1996年の末に、ぐるりと一周したことがある。今回はこの3月の末、現地の人々にガイドしてもらい、道々説明を受けて登った。大げさに言えば、恐ろしい光景の連続だった。山の名前もマタギの祖と言われている、万三郎が使われているだけに、昔は伊豆半島一帯にも、マタギの職業が成立するほど、山の動物が豊かだったのであろう。シカ、イノシシ、サル、それを餌とするオオカミも走り回っていたと思われる。

日本の森林生態系には、食物連鎖がある。これはピラミッド型をしているが、一番下には光合成をする膨大な植物群がある。それを食べる動物がその上にいる。シカ、イノシシ、サルなどや鳥類、昆虫類などである。一番上に、それらの植食動物を食べる肉食動物がいる。日本の森林ではオオカミやイヌワシであった。この食物連鎖の頂点にいる動物は、その森林の管理者として、生態系の微妙なバランスを保持する役をしている。このオオカミが果たしてきた仕事は、人間になど逆立ちしてもできない。オオカミが日本から人間の都合によって皆殺しにされてから、100年が経った。

オオカミの代わりに、人間が生態系を復元できるというので、主に、ハンターたちが山に入ってシカを撃ちまくった。しかし、所詮、人間などオオカミの比ではない。行政がズルズルと対策を怠ってきた結果、ここにきて、日本各地で深刻な生態系の崩壊が起こりはじめたのである。シカは現在、日本で年間10数万頭も駆除されているが、とても激増など食い止められない。

こうした状況に危機感を抱いて立ち上がったのが、シカの専門家たちで、東京農工大学や宇都宮大学の研究者たちであった。シカを生かし、日本の自然生態系も取り戻すためには、シカの天敵であるオオカミを日本に復活させるしかないということで、1993年「日本オオカミ協会」を立ち上げた。

日本のシカ激増で問題になっている森林地域に、昔、日本に住んでいたオオカミの先祖であるモンゴルオオカミを放そうという市民運動を始めたのである。しかし、日本では、オオカミは獣偏に良と書かせたほど、人間にとっては良い動物だったにもかかわらず、明治時代に入って、キリスト教の宣伝で、神を冒涜する悪魔の化身と決めつけられ、その残滓がなかなか消えず、いまでもオオカミは恐

山と氷河の図譜
——五百澤智也山岳図集——
五百澤智也　著／B5判／144頁／2,940円
（カラー63点、2色刷33点、モノクロ33点、計129点の作品掲載）
ヒマラヤと日本の山や氷河の細密鳥瞰図・展望図、地形図、そしてアルプスの山と氷河の水彩スケッチ、さらに日本の氷河地形分布図と日本列島地貌図など192点。全作品に解説付。
〈お知らせ〉＊本書の特装限定本150部を発売中＊
五百澤智也が想を新たに装幀した特装上製本／著者の自筆サインとナンバー入り／付録に「日本地貌図」全国図の大判一葉付。
〈6月末刊行／150部の定数になり次第、〆切〉定価7,350円

《ナメと滝の織りなす珠玉の渓谷群!!》
〔関西の沢登り3〕南紀の沢　樋上嘉秀著
南紀の30谷を詳細な遡行図と写真入りで紹介／四六判／248頁／1,995円
〈好評発売中〉〔関西の沢登り1〕台高の沢　1,995円
〔関西の沢登り2〕大峰の沢　1,995円

日本の登山・スキーの発展を側面で支えた店
好日山荘往来（上）
大賀寿二著／四六判／310頁／2,625円
山とスキー用具の変遷と店の戸をたたいた岳人たちの話。

〒606-8161京都市左京区一乗寺木ノ本町15　ナカニシヤ出版　Tel. 075-723-0111　Fax. 075-723-0095
http://www.nakanishiya.co.jp/　〔表示価格は税込〕

いとか、人間を襲うとかというイメージは濃い。

しかし、そのキリスト教圏のアメリカやヨーロッパでは、そうした偏見は少なくなり、各国でオオカミの復活が始まっている。傷ついた自然生態系を、自然の力で復活させるNatural Regulationの考え方を取り入れている。オオカミが復活したところでは、どこでも、自然生態系が、見事に復元されてきている。実際、歴史的に見ても、オオカミが人間を襲ったりしたことは人間のミスによる特別な例外を除いてはないのである。偏見とは恐いものである。

私は登山が好きである。毎日登っている太平山の深いブナの森を見ていると、この森は植物や動物たちが共同で造り上げた、人間などには決して出来ない見事な自然の創造物だと感心してしまう。その森のなかの微妙な生態系のバランスをコントロールしている、食物連鎖の頂点にいるオオカミやイヌワシなどの神技には、感動さえ覚えてしまう。

雪の深い東北地方にも、江戸時代はイノシシもたくさんいたという。冬は、オオカミが狩る餌のおこぼれをもらって、生きていたという。山村の人々はオオカミが倒したシカの肉などを横取りして、飢えをしのいだという。オオカミがいれば、他の動物たちも増えてくるといわれている。

一度、人間の都合で絶滅させた動物を復活させることは、人間の倫理的義務である。最近、頻発する自然界の異変は、やはり自然生態系のバランスがいびつになったことから、発生しているような気がする。それを自然の力で、再生させるしかないと思う。人間になど決してできないことは、自然の力に任せるしかないのではないか、と天城山を下りながら、考えた次第である。

山はなぜ高いのか

佐野忠則

このテーマは日本山岳会のメンバーなら少しは興味あるテーマだと思います。実はNHK高校講座の「地学」第3編地球の歴史で、10月5日に放送されるタイトルです。

私の高校時代は受験勉強に明け暮れ、通信制高校の教材である高校講座に目を向けることはありませんでした。しかし、最近の高校講座は以前と異なり若い人達が講師と一緒に現地に出かけ、巧妙なタッチで質疑を繰り返し、知らず知らずのうちに引き込まれる手法をとっています。

日本は南北に長く、亜寒帯から亜熱帯まで多彩な自然を自由に実感でき、かつ日本列島は地学でいうところの変動帯で、この国で生活しているだけで表情豊かな山川草木を楽しむことが出来ます。しかし、奥行きのある楽しみを味わうには少々の学びが必要となります。そのテーマを扱うのが地学ですが、さまざまな事情で中学、高校で地学を学ぶチャンスは多くの人にはありません。学校から離れた今、私たちが継続して地学を学ぶことはとても難しいことですが、そのペースメーカーとしてNHK高校講座の地学を利用することが出来ます。

放送時間はゴールデンタイムではなく、毎週金曜日の午後3時から3時30分の間で、再放送は木曜日の午前1時30分からです。なかなか視聴しにくい時間ですので録画が便利ですが、多くの岳人にとって予約録画はハードルが高いようです。生活のリズムを変える必要があるかもしれません。

地学講座では6月までは宇宙の進化ですが、7月からは地球のしくみ、地球の歴史、大気と海洋と続き、その中で野外観察の意義、火山・地震活動、造岩鉱物、山の形成、川のはたらき、山脈をつくる運動、気象など山岳会会員としては興味尽きないテーマが毎回放送されます。興味のある方は、とりあえずテキストを書店で購入してみてはいかがでしょう。

快適なフライトでアフリカ最高峰に挑む
ヨーロッパ経由KLMで行く。【山麓乗り入れ】東京・大阪発着
キリマンジャロゆったり登頂とサファリ11日間
ホロンボハット（3,720m）に2連泊
●8/11(土) ●8/23(木) ●9/3(月) ●9/14(金) ●9/27(木)発
618,000円～628,000円〈ツアーリーダー同行〉
国土交通大臣登録旅行業第490号／㈳日本旅行業協会正会員 ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社
〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪☎06-6444-3033 名古屋☎052-581-3211 福岡☎092-715-1557
e-mail:info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

活動報告

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です

三水会

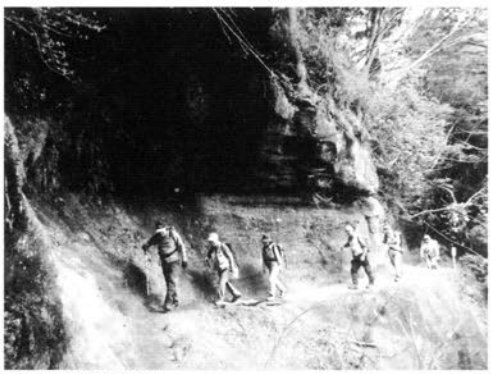
千葉の山登山集会

3月4日～5日、南総高宕山への登山集会が8年ぶりに復活した。房総の山は最高で408㍍、地理の上では「房総丘陵」とされているが、かつて千葉国体で山岳競技のコースに使われたこともあり興味深い。特に「高宕山」（標高330㍍）は、その頂上に立つと展望が360度開け、その景観は200㍍級の山に匹敵するといっても過言ではない。

4日午後、JR君津駅に14名が集合。マイクロバスで、房総半島のほぼ中央に位置する三島湖畔の清和国民宿舎に向かった。夜の懇親会は、名古屋から車椅子で参加された妹尾夫妻を交えて、大いに盛りあがった。

5日、雨という天気予報に反し、薄日のさす好天となった。高宕第1トンネルの登り口より石射太郎（258㍍）の岩峰へはワンピッチで達する。九十九谷をひかえて立つ山々は、北に鹿野山、南に高宕山、八良塚など、その展望は千葉県にもこれほどの山が！と思わせる大きさを感じさせる。

天平の頃より長い歴史を持つ高宕観音までのプロムナードの中には、フジザクラ、ヤマルリソウ、スハマソウ、マムシグサなどが花をつけ、われわれを迎えてくれた。


高宕山巻道を奥畑へ

崖の観音堂から10分ほどで高宕山頂への岩場に取り付く。頂上の岩峰は数人が立つのが精一杯であった。疾風にあおられる感覚は、谷川岳頂上をも思わせる程である。

南面から下りる切り立ったルートは、現在は封鎖され、巻き道に戻るだけのコースになってしまった。しかし、奥畑バス停までの山道は快適で、高齢者には疲れを感じさせない。早春の自然を満喫した山行であった。（勝田房治）

101の会

岩殿山ハイキング

101の会2回目の山行は、4月8日の「岩殿山」。天気は上々、メンバーは、今回初参加の3人を含めて9人、和気藹々とした山登りとなった。

いきなり急登を強いられたが、満開のサクラの花に魅せられて、一気に岩殿城址に着いた。ここからの展望はすこぶるよく、しばし寛いだ。頂上直下にはカタクリが数株姿を見せており、平地とは趣きの違う、陽春の山草に、皆の顔も輝いた。

急坂を右に折れて、兜岩、稚児落としの岩山に向かう。急な下りであったが、サクラ、ヤマツツジ、トウゴクミツバツツジに癒されながら、やがて岩場に到着。その後、トラロープや、鉄柵につかまっての登りの後、稚児落としの岩場に到着。

急な礫岩の崖の真上で昼食をとる。花曇りで展望は今ひとつであった。ここから急坂を浅利集落着。途中バスに拾ってもらって大月着。駅前での乾杯と相成った。（平野和夫）

ATLAS TREK
個人手配旅行から人気のトレックツアーやエクスペディションのアレンジまで。充実度が違う「旅」のプランニングをこころがけています。山旅などあらゆるジャンルを取り扱っています。お気軽にご連絡ください。
株式会社 アトラストレック
（国土交通大臣登録旅行業1167号）
東京／〒160-0008 東京都新宿区三栄町25 三栄ハウス202 TEL 03-3341-0030
大阪／〒540-0012 大阪市中央区谷町3-4-5 中央谷町ビル501号 TEL 06-6946-9111
名古屋／〒464-0807 名古屋区千種区東山通り5-113 オークラビル6F TEL 052-788-2422

図書紹介

『雪崩の掟』

若林隆三・著

2007年4月
信濃毎日新聞社刊
A5判　170㌻
定価　1680円

雪崩の専門家として長年国内外の雪崩に関わってきた著者が、最近の国内情報をもとに富士山の雪代・雪崩旋風・雪崩遭難者の生と死の分かれ目・雪庇の崩れの解析などをし、雪崩も自然現象の一つであり、山の自然循環の一つであるとしている。

独立峰である富士山は日本一の高さを誇るというだけでなく、降り積もった雪は十六世紀以降からでも何回となく多くの雪崩を起こしている。ハザードマップにまとめその巨大さを図解、特に富士・御殿場口の太郎坊周辺に目を向け、春先の温暖な低気圧が何回となく雪代と呼ばれる雪と火山灰が溶け合った液状化の流体となり雪崩となることを指摘し、無謀だった観光開発や雪代の怖さを登山者に呼びかけている。この雪代関係に本文の3分の1以上を割いている。

山頂から一気にすべり落ちる雪崩は、その通過した周辺に旋風を起こし風は思わぬ方向へと向くことから、想像以上に被害を増大させる。北アルプスの岳沢ヒュッテは旋風により吹き飛ばされたという。

また雪崩によって登山者が遭難する例は後を絶たない。雪にうずもれた人は、雪の中で10数時間も生存していたという例もあるという。冷え切った人体を救出したとき、手足を急激に温めたり摩擦することが、救出後2～3時間で死（レスキューデス）を招くのだという。スイス山岳救助隊の適切な処置について述べている。

2000年春の合宿で、立山では雪庇の頭部に27人もの登山者が登り、崩れて滑落2名の死者をだしたという。このことから雪庇の内部を紹介、ヒドンクレバスと同様の現象のあることや力学的にどの位置までが安全領域かを解析し、登山者への警鐘を鳴らしている。

雪崩は地震などと同じで予告なく突然やってくる。しかも毎年雪崩れるとは言っても、その時刻は決まっていない。いわんや数十年に一度の大雪崩は、遭遇する人にとっては全くの偶然である。しかし、その偶然を単に仕方のないこととしないで、科学的に解析し自然との関わり合いを理解することによって、より的確な対策を示唆している1冊である。関係者のみならず広く登山者なども知っておくべき書籍である。（林　栄二）

『北大山岳部々報　第十四号』

北海道大学体育会山岳部・編

2006年12月
北海道大学体育会
山岳部発行
B5判　553㌻
非売品

大正15年に創立した北大山岳部は、日高山脈などの山々を次々と初登頂し、北海道の登山界をリードし、輝かしい記録を残している。戦前発行の部報一号から七号までは、貴重本で古書価格が高騰して入手困難であった。それが昭和61年に復刻版が発行され、競って買い揃えたものである。

戦時中のブランクがあり、八号が出版されたのは18年の歳月を経てからであった。今回の十四号は17年間を収録して纏められたもので、まさにそれに匹敵する。

従来の山行記録は年度ごとにこだわっていたが、今回は道内の山行記録を日高山脈、大雪山など10山域に区分し、それぞれ無雪期と積雪期に分け、年度ごとにルート、日付、メンバー等を一覧表にして、それに詳述しているページを付している。その北海道の項目が23

8ページにも及んでいるのでありがたい。たとえば、夏の日高山脈に入る際に、この一覧から詳述ページがすぐに検出でき、古い林道が現存しているかどうかなど、ガイドブックの役割を果たしている。

さらに、道外、海外の山へと続き、台湾とカムチャッカを特集している。

過去の北大は伝統的にイグルーを作って冬山に挑んでいたが、軽くて設営に便利なドーム型テントが開発され、その後イグルーは衰退していった。それを米山悟氏が復活させながら自ら高所での体験を重ねて、十三号で「イグルー研究」を発表。今号では勝亦浩希氏が継承し、中間報告として樽前山とオプタテシケ山で、低気圧の通過時に氷の粒を含んだ爆風によってブロックが削られ崩壊。また、上ホロカメットク山八ツ手岩付近では暖気で融けて崩落したと報告している。ブロックの積み方、二重・三重の防御、万一に備えツエルトの持参などを提起している。

装備の変遷一覧表は、17年間の変わりようが一目でわかり、高性能な用具を再認識させられた。岩登り、沢登り、冬期の個人装備、夏冬別のザック収納物、雨蓋に入れるべきもの、泊まり装備などが詳記され、実践的に大変参考になると思われる。最新情報が盛り込まれた実用書でもある。

（高澤光雄）

入手方法はHPを参照ください。
URL：http://aach.web.fc2.com/

Walter Theil・編『BERG 2007（Johrbuch Band 131）』

2007年
DAV,OeAV,AVS刊
A４変形判　320ページ

ドイツ・オーストリア・南チロル山岳会の合同年会報、第131号。例年の2万5000分の1地図付き山域特集はグロックナー山群。

巻頭のトップ・テーマは「小屋と道」。創立当初から山小屋の建設と登山道の開拓を主要課題としてきた山岳会の面目躍如。数年前からチロルでシェルパに料理を含め山小屋の経営管理を教育するプロジェクトを進めているという。

「今日の山岳スポーツ」では8000メートル14座登頂に挑戦中の女性トップクライマー、ゲアリンデ・カルテンブルンナーの行動力に驚嘆。「文化と科学」では3山岳会の歴史アーカイヴとそのオンラインの話がJACにも参考になりそう。「登山史」は冒頭のリスク論と、ルウェンゾリ初登の100年前と現在との写真による対比が興味深い。

「山岳会フォーラム」ではナチス時代にグロックナー山群に設けられたヴァイスゼー強制労働収容所（2300メートル）の地獄絵がドイツ・オーストリア山岳会の恥部を暴く。南チロル山岳会60周年記念集会でのラインホルト・メスナーの講演は、山と文化を語って、現在の登山と山岳会のあり方に鋭く斬り込む。同集会でのドイツ山岳会会長の講演で、会員急増（74万！）の要因が各支部による屋内クライミング場の建設にあることを知った。

欧米山岳会の彩り豊かな年会報を見るにつけ、わが『山岳』の旧態護持の姿勢は尊いのか否か……。

（平井吉夫）

図書受入報告（2007年5月）

著者	書名	ページ・サイズ	出版元	刊行年	寄贈／購入別
東海大学K２登山隊(編)	K２ 2006――日本人女性初登頂・世界最年少登頂の記録	127pp/27cm	東海大学出版会	2007	編者寄贈
早川禎治	アイヌモシリ紀行：松浦武四郎の「東西蝦夷日誌」をいく	277pp/19cm	中西出版	2007	著者寄贈
敷島悦朗	徹底ガイド　春夏秋冬八ヶ岳	159pp/21cm	東京新聞出版局	2007	出版社寄贈
奥山直司(編)	河口慧海日記――ヒマラヤ・チベットの旅(講談社学術文庫1819)	314pp/15cm	講談社	2007	出版社寄贈
畠堀操八	富士山・村山古道を歩く	271pp/19cm	風涛社	2006	著者寄贈
小泉武栄	自然を読み解く山歩き(大人の遠足Ｂｏｏｋ)	191pp/19cm	JTBパブリッシング	2007	出版社寄贈
山本けいこ・石田孝夫(編)	ブータン日本語文献目録	206pp/30cm	日本ブータン友好協会	2007	発行者寄贈
デナリ・パブリッシング(編)	山からのメッセージ――上野松坂屋夏山相談所開設50周年記念	77pp/26cm	松坂屋上野店山松会事務局	2007	羽田栄治氏寄贈
菱山忠三郎	野の花の旅――ぐるっと日本列島	383pp/19cm	山と渓谷社	2007	出版社寄贈
三島秀介(編)	岩燕(第９号)――麻布学園山岳部創立60周年記念誌	156pp/21cm	麻布学園山岳部	2006	発行者寄贈
堀越仁治・野口いづみ(編)	カナダ山スキー 2006記録集――カナディアンロッキー	80pp/26cm	JACアルパインスキークラブ有志	2007	発行者寄贈
Cally Henderson	The Journal of the Mountain Club of South Africa (No.108)	198pp/24cm	Mountain Club of South Africa	2006	発行者寄贈

会務報告

平成19年度第2回(5月)理事会

日時　19年5月9日　18時30分～20時30分
場所　日本山岳会会議室

【出席者】平山会長、平林・橋本・田邊各副会長、吉永・贊田・篠崎・野口・斎藤・渡邉・石橋・古野各理事、竹中・内田各監事、小倉・重廣・今村各常任評議員
【委任】石田・藤井・大蔵各理事

●議事に先立ち、平山会長より今回が現執行部最後の理事会となった。なし得なかった改革については、「引継ぎ書」によって次期執行部に引継ぎ実現を図って戴きたいと考えている。現執行部の方々の2年間に亘る協力に感謝したいとの挨拶があった。

【議事録署名人】斎藤・石橋各理事

【審議事項】

1・平成19・20年度役員及び評議員候補について

平山会長より、4月理事会の審議に基づき、宮下新会長候補と面談し、既に候補者リストに上っている中から会長・副会長候補を除く理事及び評議員の候補を絞り、その案がまとまった。4月21日の評議員会に提案、承認され、4月25日付で総会開催通知に同封して全会員に役員・評議員(案)を送付したとの報告があった。これに対し、推薦手順に関する意見及び候補者の年齢についての意見が出された。　(承認)

2・「栃木支部」設立承認申請について

「栃木支部」設立発起人会の渡邉事務局長より、栃木在住会員に同意を求めたところ、43名の会員のうち、設立同意・入会33名、設立同意・非入会1名、設立不同意1名の回答を得たため、設立承認申請に及んだ旨の説明があった。5月27日に設立総会・祝賀会開催の予定。　(承認)

3・「支部長」交代承認申請について

(1)北海道支部：新妻徹氏（№5868）→長谷川雄助氏（№6103）
(2)山形支部：故・斉藤哲郎氏→佐藤淳志氏（№7446）　(承認)

4・首都圏の支部化に伴う「支部運営費」の助成額について

ルームの利用及び各種イベントへの参加の利便性等を勘案し、次のとおりとして運用することとした。

●「栃木支部」及び「茨城支部」のケース：1人当り2500円（規定どおり）
●「千葉支部」のケース：1人当り1500円（1000円返納）　(承認)

5・創立100周年記念事業特別会計の支出について

(1)東海支部：ローツェ南壁(冬期)登山隊報告書助成金30万円
(2)関西支部：クビツァンポ源流学術登山隊助成金100万円（学生隊員の育成等に期待）　(承認)

6・名義後援願：第8回ライチョウ会議長野大会実行委員会

8月18・19日　大町市で開催されるライチョウ会議の名義後援　(承認)

7・資料写真撮影・使用許可願：日本テレビ放送網(株)

5月11日放送の「午後は○○思いっきりテレビ…きょうは何の日コーナー」に使用するエヴェレスト隊の写真等　(承認・有料)

8・資料提供願：(財)日本地図センター

月刊誌『地図中心』への『写真で見る日本山岳会の100年』9ページの写真掲載　(承認)

9・大会開催掲載願：日本山岳文化学会

11月24・25日　第5回日本山岳文化学会大会の開催要領掲載願　(承認)

10・その他

(1)第61回上高地ウエストン祭記念講演の講師について
信濃支部より依頼があり、新会長候補の宮下秀樹氏にお願いすることとした。
(2)「高尾の森づくりの会」と自然保護(委)の関係について
内外の賛同・協賛を得て活発な活動を行なっている「高尾の森づ

くりの会」と自然保護(委)の関係について議論を行なった。一部にNPO法人化を促すとの意見もあったが、山岳環境保全という公益性の観点から、今後も自然保護(委)のコントロールの下で活動するべきであるとの意見が大勢を占め、次期理事会で実態把握の上、調整するよう引き継ぐこととした。

【報告事項】

1・評議員会について（会長）

去る4月21日に開催、平成19・20年度役員・評議員の候補者(案)選考過程について経過説明をしたのち、了承を得た。候補者(案)については総会開催通知に同封することとした。

2・創立100周年記念事業委員会について（吉永）

去る4月12日に開催、『百年史』が3月末に発行され会員に送付した旨の報告をし、併せて、特別会計については平成19年度末で決算を行ない、剰余金処分案についても平成20年度第1回総会に提案する旨の報告をした。

3・創立100周年記念事業実行委員会・解散式について（吉永）

去る4月26日、実行委員のほか事業委員及び支部からの出席者を得て開催。各委員会の報告ののち、実行委員会の解散式を行ない、慰労・懇親会を実施した。

4・評議員　竹田寛次氏逝去

去る5月5日逝去された旨報告がなされ、評議員としてのご活躍に感謝し、ご冥福を祈った。

5・「高尾の森づくりの会」活動報告

5月12・13日「みどりの感謝祭・森の市」出展及び新潟県魚沼NPO法人「魚沼伝習館」との提携活動等について。

6・5月度入会者　19名

ルーム日誌 5月

2日　101会
7日　総務委員会　高尾の森づくり実行委員会　九五会
8日　図書委員会　アルパインスケッチクラブ　01会
9日　理事会　事業委員会　山想倶楽部　山岳地理クラブ
10日　学生部　山の自然学研究会
14日　総務委員会　アルパインスキークラブ
15日　図書委員会　インターネット小委員会　緑爽会　ゆきわり会
16日　三水会　つくも会
17日　科学委員会　フォトビデオクラブ
19日　支部長会議
21日　資料映像委員会　プモリ研究会
22日　千葉支部　山遊会　00会
23日　会務引継ぎの会　麗山会　アルパインスキークラブ
24日　自然保護委員会　新土曜会
25日　アルパインスキークラブ
28日　総務委員会　高尾の森づくり実行委員会
29日　臨時理事会
30日　青年部

5月来室者565名

会員異動（5月）

物故

竹田寛次（4596）　07・5・5
岡部　實（13898）　07・5・6
原口令昭（14223）　07・5・6
伊達篤郎（5154）　07・5・26

退会

西川　廣（5090）　東海
灘地信夫（6325）　石川
野澤重治（6606）　東海
佐藤行彦（7243）　北海道
伊丹紹泰（7490）　東海
丸山敏郎（7707）　東海
本多　矩（9029）　北海道
木村義照（9920）　京都
山戸　潔（10015）　関西
三枝啓子（10326）　関西
後藤　正（10700）　関西
伊能泰郎（10726）　関西
兼子洋行（11411）　関西
黒澤　満（11472）　関西
北村愼一（12509）　関西
星野修二（12650）　関西
佐野辰彦（12774）　静岡
藤井迪夫（12900）　福島
永田康弘（13017）　福井
井山昭武（13048）　福井
森川　清（13102）　東海
杉山雅彦（13182）　山梨
松山　昇（13247）　岐阜
畠中　博（13383）　山形
橋本剛治（13928）　山形
太田尾高利（14137）　宮崎

Wec　株式会社ウェック・トレック
国土交通大臣登録旅行業1662号/日本旅行業協会正会員
〒105-0003 東京都港区西新橋3－24－8山内ビル4階
電話 03－3437－8848 E-MAIL info@everest.co.jp

A４判　185㌻
定価（１冊）
　会員は1200円
　一般は2000円
写真およびCD-ROM添付

『中央分水嶺踏査報告書』購入のお勧め

日本山岳会創立100周年記念事業として実施した中央分水嶺踏査が多くの会員のご努力で完遂され、報告書が出版されました。25支部および17同好会の約1300人の会員による踏査の概要報告とともに、さまざまなトピックスが記されています。参加者全員の氏名が掲載されており、1000以上のそれぞれの山行の記録がＣＤ－ＲＯＭに収録されています。

日本山岳会事務局宛にFAXかハガキでお申し込みください。送料は実費です。

ご氏名の訂正および追加

下記の方々のご氏名が誤記、欠落していました。お詫びして訂正いたします。

誤記　京都支部　磯部純→礒部純（P117、P173）、岩手支部　安部陽子→阿部陽子（P169）、つくも会　芹沢敏夫→芦沢敏夫（P73）

欠落　関西支部　新井浩（P174）

●さんけん通信●

山研開所の報告

山研管理人　内野慎一

残雪が行く手をふさいでいた昨年とは対照的に、今年はすっかり開いたフキノトウに迎えられて山研に入りました。山研の陰には残雪があったものの、笹藪は起き上がろうとしているところでした。

開所作業は４月27日、開山祭の日から始めました。一番の気がかりは、昨年７月の大雨で荒れた水源でした。しかし、閉所の時に仮決めしておいた取水場所も、支点を新しくしてきちんと敷き直しておいた最上部のパイプも、雪に押されたり崩れたりすることもなくそのままの形で冬を越していました。それを確認してひと安心。水源付近も雪は消えており、昨年のような深い雪掘りに時間を費やさずにすみ、取水口の整備やタンク、パイプの補強工事ができました。

開所にあわせて資料映像会委員による資料の整理や、ミニ水力発電の改良の電気工事も行なわれ、28日は総勢16名になりました。この日はとても冷え込み、雪の降る中でのつらい外作業でした。飲料水のパイプが凍ってしまうアクシデントもありましたが、翌29日には大方の作業を終え、最初の宿泊者をお迎えしました。

ゴールデンウィークの山研の利用者は前半に偏っていました。上高地は観光客で賑わい、外国語も飛び交い、そんな中をピッケルやスキーを背負った登山者の姿が目をひきました。

今シーズンから宿泊料金が改定されました（会報『山』５月号14㌻参照）。ホームページでもご覧になれます。これを機会に、まだ利用したことのない方もぜひ一度いらしてみてください。夏山シーズン前の静かな上高地でお待ちしています。

INFORMATION
インフォメーション

◆第3回「山の博覧会」開催
山梨支部

山の博覧会は、登山の普及と山岳文化の振興を目的に、05年より毎年1回開催しています。今年は「山と文化」と題し、信州大学の笹本正治氏と『北八ツ彷徨』の著者である山口耀久氏の講演を行ないます。懐かしい山の歌を歌う企画や、会員の作品展示などもあります。入場無料。

日時　7月7日(土)10時～15時30分
場所　山梨学院大学メモリアルホール
受講申し込みの詳細は①または②まで。
①山梨学院生涯学習センター「山の博覧会」係（TEL）055-224-1355（FAX）055-224-1496）
②山梨支部事務局　古屋寿隆
（TEL&FAX）055-276-8004
✉qqpk733v9@feel.ocn.ne.jp）

◆『越後山岳11号』発行のお知らせ
越後支部

創立60周年記念号を発行しました。越後支部60周年の歩みを基本に編纂されています。

A5判、503ページ、定価2900円（送料込）。

購入希望の方は越後支部事務局まで（〒959-3265　新潟県岩船郡関川村下関1100-1
越後支部事務局　横山征平
（TEL&FAX）0254-64-0469）

◆夏山『北信三山放射状登山』
事業委員会

戸隠小舎をベースに高妻、黒姫、飯綱山に登ります。前半は、ミセスウェストン祭に参加を予定。

日時　8月4日(土)～7日(火)
集合　4日　12時30分
解散　7日　15時
＊集合・解散ともに戸隠小舎
宿泊　戸隠小舎
費用　3万5000円（宿泊、弁当、保険料、現地交通費、通信費他）
定員　20名
申込　7月20日迄に中原良材まで
（FAX）042-924-3049
✉nakahara@propel.ne.jp）
＊計画の詳細は7月に郵送します。

◆自然保護全国集会の予告
自然保護委員会

07年度自然保護全国集会（山梨・静岡支部共催）を開催します。

日時　11月17日(土)～18日(日)
場所　山梨県「レイクホテル西湖」
テーマは①高山植物、山のトイレ、登山道。②富士の自然と文化。
仮申込み受付中（川越尚子まで
（FAX）042-321-6059
✉kawagoejac@nti.biglobe.ne.jp）
＊詳細は8月号に掲載します。

奥野渓石

❖編集後記❖

●5月19日に通常総会が開かれ、宮下秀樹会長による新執行部が選出されました。今後の山岳会の舵取りに期待したいと思います。また平山善吉前会長をはじめ理事の皆さんには大変ご苦労様でした。

●その平山前会長に退任の挨拶と、宮下新会長に抱負を綴っていただきました。総会の挨拶と重複するかもしれませんが、山岳会の今後に示唆に富んだものでした。

●総会の当日は大変多くの会員の方たちに集まっていただき、とても盛会でした。ただやはり、若い会員の姿はほとんど見当たりませんでした。山には若い登山者が少しずつ増えてきているのに、山岳会はまだまだです。若い会員の入会が、緊急の課題であることを再認識させられました。（神長幹雄）

日本山岳会会報　山　745号
2007年（平成19年）6月20日発行
発行所　社団法人日本山岳会
〒102－0081
東京都千代田区四番町5－4
サンビュウハイツ四番町
TEL　東京(03)3261－4433
FAX　東京(03)3261－4441
発行者　日本山岳会会長　平山善吉
編集人　神長幹雄
E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp
印　刷　株式会社　双陽社